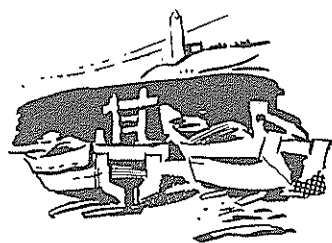


# 部落解放への道



## 部落のなりたち



「部落は、いつ頃どのような経過を経てつくりだされたか」

部落の成り立ちについては、多くの学者が研究し、文献も数多く出されているが、はじめに明確にしておかなければならないことは、法的に身分制度として確立されたのは近世の江戸時代に入ってからであること。それ以前にも賤民扱いをうけていた人々が存在していたことは事実であるが、それはその人たちの生活の貧しさや住居をする場所や、たづさわっている職業によってそのように取り扱われていたのであって、職業なども親から子へ世襲し、他の職業に変わることのできないものではなかったし、住居の場所も法によって定められたものではなかった。他へ移り住むことも可能であったので現在の未解放部落と直接結びつけることには無理があるので、これについてはあとで詳しく述べることにして、この項では近世封建社会（徳川幕藩体制）の仕組みの

なかで部落が作られた過程について述べてみましょう。

(1)徳川幕藩体制について  
近世の江戸時代は、封建社会という点では中世の鎌倉、室町時代と同じでした。

封建社会とは、ひとくちにいえば各地に割拠して土地を支配する領主が農民（百姓）を支配し、農民を土地にしばりつけてその時代の経済の中心である米を年貢として取りたてる仕組みです。

ところが中世の後期になると、農業のほか商工業が発展し、商品を買収する市場や水陸の交通が盛んになって城下町その他の都市も生まれできます。このように商工業や交通の発達に対応した新しいかたちで庶民支配を強化するための仕組みが徳川幕府による近世封建制というものです。戦国時代には群雄が割拠して争っていました。これを統一することは織田信長によってはじけられ、豊臣秀吉によって完成され、そのあとを

うけて徳川家康によって全国的に組織化されました。この仕組みを徳川幕藩体制とよんでいます。この体制は武士が農民と新しく社会勢力となった町人階級を支配する仕組みです。江戸時代は武士階級と庶民大衆の人口比率は十四対一でした（二百万人の武士階級が二千八百万人の庶民を支配していた）ので彼等が独占していた武力だけで支配することは不可能です。庶民大衆が手をつないで武士に反抗できなくするため民衆の結合をバラバラにし対立させることをそのための制度をつくりました。この新しい仕組みが身分制度で、士、農、工、商といわれるものがそれぞれです。

大名や武士達、近世の支配階級の大部分は成り上り者でした。秀吉や家康にとっては自分達が天下をとるまでは家柄や身分などより実力がものをいう戦国の自由な時代がたつこうが良かったのです。これらの人々はその時代の社会風潮である下剋上の思想と民衆の力を利用し自らが支配者になったのです。もし、この時代が身分や家柄によってその人の人生が左右されるような社会であつたら、尾張の水呑百姓の子に生まれ草履取りであつた秀吉が関白大臣になつたり、三河の山間部の小士家の出の家康が征夷大将軍などの地位につ

くことなど思いもよらないことだつたのです。大名でも同じことです。どこの馬の骨かわからぬ者の子孫やきのうまで夜盗だつた者が大名になることなどは、安定した社会であつたら許されないことです。ところが彼等が権力の座につくと、その地位と権威と財力を子孫に残すため新しい社会的な規制力をつくるのが絶対に必要となつたのです。秀吉、家康はもとより新興の大名たちは戦国期には民衆の下剋上に便乗しその力を利用して支配者になつただけに民衆の団結した力の恐ろしさを身にしみて知っています。それだけに彼等は支配者の座につくやいなや民衆をバラバラにし、実力を貯へる余裕をなくするためにさまざまな圧迫を加えてきました。秀吉のやつた刀狩りや検地がそれです。

徳川幕府は、これを組織化し、社会体制として永続させるため身分制度をつくらせてその総仕上げをしました。士、農、工、商という身分を法的につくり社会的な格付をしたのです。將軍の子は將軍、武士の子は武士、百姓の子は百姓にしかたれませぬ。しかもこれが親から子へ世襲することが法によって定められました。この格付けは、その当時の人びとの職業や生活実態をもとにしてきめたものです。

正しく交通規則を守りながら運転していてもほかの自動車や歩行者が急に進路を変えたり、とびだしてくることがあります。それ以前もって予想して交通事故を未然に防げるように運転するのが防衛運転です。

### ▼お化粧より健康

どんな美しい婦人でも体の具合が悪いと顔色がさす。美人の条件が欠けます。あなたの車もそうです。日本人はきれいな車もたくさんありますが、毎日、出勤前に作業点検をする人はあまりいないようです。顔のお化粧は大切ですがそれよりも作業点検をしっかりやっつて、途中でブレーキがきかなくなつたということのないようにしましょう。

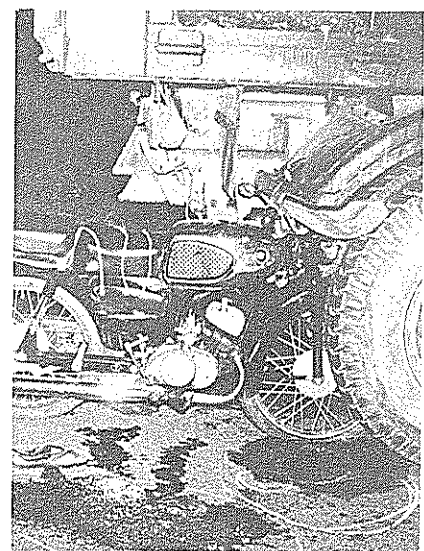
### ▼ルールは変わる

交通事情は毎日変わっています。それとともに交通のルールを定めた道路交通法も改正されています。ルールを知らないでスポーツ競技はできません。あなたが免許試験を受けたとき、あなたが古い奴だと笑われる

かもしれないのです。新しいルールを勉強して下さい。

### ▼裏通りは歩行者に

朝のラッシュ時、幹線道路が混雑しますと、会社へ急ぐあなたはきつと裏通りへ入るでしょう。ところが裏通りは危険がいっぱいで



みんなの交通安全

す。落路から急に子供が飛び出してくるかもしれません。信号のない交差点の横あいから進入してくる車もあるでしょう。もしあなたが会社に急ぐのですら幹線道路を正しく走りましょう。

やむを得ず裏通りを運転するとき、慎重に、ゆっくり行きましよう。

### ▼スペースをとつて

前をゆく自動車をとるときも、歩行者の側を通るときも、十分なスペースをとらましよう。歩行者などの側を通るときは、十分なスペースをとれないときは、必ず徐行しましょう。これが防衛

運転です。

### ▼交差点での事故防止

見とおしの悪い交差点を徐行もしないで入ることはしないでしよう。また、相手の方に一時停止の標識があつても、あなたがこの交差点で優先通行権をもつていることにはならないのです。一時停止の標

## 防衛運転とは

識はあくまでも相手に「止まれ」という義務を課すだけであつて、あなたが徐行しなくてよいというのではありませぬ。見とおしの悪い交差点で徐行する、一時停止して左右の安全を確認する、これは防衛運転の初歩なのです。事故の大多数は交差点で発生しています。交差点では常に、相手に優先通行権があることを忘れず

これを怠つたり、時期を失いますと衝突したり、追突されたりします。同じように相手の合図も見逃がさないようにしましょう。しかし不必要な合図はいけません。右、左折が終つたのに、まだ合図をすることは、ほかの運転者の判断を誤らせ、交通事故の原因になります。あなたが一人、道路を走っているのではないのです。

### ▼先行者に注意

先行車の合図に注意することはもちろんですが、先行車が突然停止したとき、まんなとこれを追抜くようでは防衛運転の資格はありません。こんなときは衝突を防止するために、徐行するなどしなければなりません。

### ▼初心を忘れず

運転を習いはじめのころを思い出してください。スピードも出さず、そろり／＼と運転していたこととでしよう。時と場所によっては、この運転がもっとも大事なのです。アクセルペダルに足をのせる前に、ブレーキペダルを踏む必要をもう一度思い出し、実行してください。